

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
岩崎 勢智子			

講義概要	幼児の発達と保育の役割について今日までの到達点を明らかにしつつ、幼児の内面的・発達の理解、環境構成と再構成のあり方、遊びの生成と展開、個と集団の育ち、家庭・地域・小学校との連携、障害児教育等の基礎理論や教育方法を講義やパワーポイント、ビデオ、幼児用教具により理解する。また、幼児にふさわしい教材による遊び方や園内の表現的行事の生かし方を考察する。		
授業計画	1	保育方法を学ぶ意義 保育方法とは何か	
	2	子どもの理解と基本姿勢 保育者の基本姿勢、カウンセリングマインド	
	3	子どもの理解と援助、指導 子どもの理解と援助、指導	
	4	環境を生かした保育方法 保育における環境の構成と再構成	
	5	遊びを通しての総合的な指導方法 幼児の生活の中心である遊びの援助	
	6	個と集団を生かした保育方法 個の育ちと集団の育ちとは、育ち合う姿の深まり広がり	
	7	子どもにふさわしい園生活と保育形態 幼児の活動と形態、様々な保育形態	
	8	発達時期に応じた保育方法① 3・4・5歳児の発達と保育方法	
	9	発達時期に応じた保育方法② 0・1・2歳児の発達と保育方法	
	10	保育の計画・実践・評価① 指導案を書いてみよう	
	11	保育の計画・実践・評価② 保育の計画・実践・評価の実際	
	12	家庭・地域との連携を生かした保育 地域に開かれ、家庭との連携が生かされる保育	
	13	小学校との交流活動のデザイン 小学校との連携を軸にした保育方法	
	14	配慮を要する子どもへの保育方法 ちょっと「気になる」子どもの理解と保育の基本的考え方	
	15	よりよき保育者をめざして 保育者としての資質について理解	
授業形態	講義		
評価の観点、評価手段・方法、評価比率	①幼児の主体的な活動を援助する保育方法を理解する ②幼児を保育していく上で必要となってくる内面的、発達の理解への重要性を理解する ③環境構成のあり方について理解する ④遊びの生成と展開、育ちと集団での育ちの基礎理論を修得する ⑤障害児教育、幼保小連携などの新しい教育方法を理解する		
教科書・参考書	テキスト：『保育方法・指導法』 参考書：『保育方法論』 『現代保育論』 『保育方法の実践的理解』	大豆生田啓友・森上史朗・渡辺英則 編 山本和美・井柳基名・尾崎恭子 編 魚谷和史・穴戸健夫・丹羽 孝 編 久富陽子・梅田優子	ミネルヴァ書房 樹村房 かもがわ出版 萌文書林
履修条件			
履修上の注意			
オフィスアワー	授業の前後で対応します。		
備考・メッセージ	【準備学習（自主学習）】次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。		